麦の穂

題字：かまたみさ

第51号
2014年10月

特定非営利活動法人
麦の会
TEL＆FAX
022-299-1279
〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1　郵便振替口座　02200－8－46178
E-mail：muginokai@k5.dion.ne.jp　http://www.muginokai-koppe.com

～NPO法人共同連・東北交流会～

東北で共同連に関心をもつ事業所（団体）・個人に声をかけて交流を図りたいと思います。各地の共同連加盟の人たちも参加予定です。

日時　11月9日（日）　11時～15時

11時～12時	東北参加事業所（団体）・個人の自己PR
12時～13時	ランチョンセミナー
13時～14時	NPO法人共同連入門講座
14時～15時	質疑・意見交換等

場所　るーぷ　仙台市宮城野区松岡町10-7　大倉ビル1F

費用　お昼代（実費）　＊同封のチラシを参照ください

目次

コッペの皆さま　ちょんこめ作業所　西尾　径子　・・・2p
共同連熊本大会に参加して①　菅井　俊介　・・・3p
共同連熊本大会に参加して②　角田　卓也　・・・4p
共同連熊本大会に参加して③　鳥海　修子　・・・7p
バーベキュー秋　阿部　央希　・・・8p
実習を終えて　三浦　竜次　・・・9p
8回目の街へ～みやぎアピール大行動報告～　及川　智　・・・10p
ナイスハートバザールinせんだいのお知らせ　・・・12p

助成金をいただきました。感謝申し上げます。
(公益)中央競馬馬主社会福祉財団様　82万円　車両購入費として
(社福)読売光と愛の事業団様　150万円　オーブン購入費として

コッペの皆さま

台風の影響はいかがでしょうか。
きょうされんのTOMO市場の被災地ショップを通じて注文し
毎年の作業所や地域のまつりにて、コッペさんのクッキーを販売させていただいている八丈島のちょんこめ作業所です。

「いつも美味しいクッキーをありがとう！」とお伝えしたくて、
「商品レビューのコーナーはないんですか？」とTOMO市場担当者にお聞きしたらメールアドレスを特別に教えていただきました。

すぐにメールすれば良いものを、今頃になってしまい大変失礼します。

コッペさんの商品は、美味しくて日持ちもしますし、美味しいクッキーがなかなか手軽に手に入らない島の人たちにも気軽に買えて人気なんですよ！（特に、ココア、ゴマ味はいつも人気です！）

3 月の「ちょんこめまつり」でも、地域のまつりでも、毎年「被災地作業所応援コーナー」を作り、被災地商品を販売していますが、
すぐに売り切れてしまいます。

先日、TOMO市場のメルマガにて、コッペの皆さんの状況も知り
まだまだ、被災地の事も忘れず、繋がっていければと思いました。
まだまだ大変な事もあるとは思いますが、ともに、元気に頑張っていきましょう！

今後ともよろしく御願いします。

八丈島　ちょんこめ作業所　　西尾径子

＊ちょんこめ作業所さんは、きょうされんのネットショップ TOMO 市場の被災地ショップで継続してクッキーをご注文いただいています。

そのちょんこめ作業所さんから、お便りが届きました。本当にうれしいお便りです。ありがとうございます。行きたいなぁ、八丈島へ。

ちなみに気になって調べたら「ちょんこめ」とは八丈島の方言で 「子牛」のことだそうです。（飯嶋）

第３１回共同連大会に参加して

ＮＰＯ法人フルハウス　フリースペースソレイユ　菅井　俊介

９月 13～15 日、第 31 回共同連全国大会が熊本で行われ、私は 13～14 日の熊本学園大学での開催に参加してきました。共同連大会は、宮城、東京、そして今回の熊本と３度目の参加となります。「きらない、わけない 誰もが共に生き共に働き自立できる社会を！」～脱福祉的就労から協同をつくろう！社会的事業所を広げよう！排除された側から共生社会を実現しよう！～をテーマに、これまで、共同連は障害者のみならず一般就労から排除されている人たちに福祉的な訓練の場ではない、第３の就労の道として「社会的事業所」が必要であると訴えてきました。この大会を通じ、熊本の人々に広く共同連を知ってもらうとともに、全国の仲間が改めて共同連の原点「共に働く」をもう一度問い直す大会とし、社会的事業所づくりを発展させたいと考えての大会内容になっていました。

私が１３日のシンポジウムで思った事は、「共に生きる社会は、共に学ぶ教育から」なのではということです。色んな人、仲間がいて、その人にあった環境作りが大切な事だと、私は必要なのだと考えています。シンポジウムの講師の方々も、共に働き、共に生きる共同連に、これまでの活動を通して、これからの人達にどう伝えていくべきなのかということを言われました。

また、来年からは全国に生活困窮者自立支援制度が始まります。既に各地でモデル事業が行われており、就労支援事業が重要な位置を示すものとなっています。貧困・格差により生活困窮と社会孤立の問題が広がるなかで、わが国における社会的排除の問題も深刻化してきており、「社会的事業所」が求められる時代になってきているといえます。

その後の交流会では、他県から沢山の皆さんが参加され、私は各事業所の作業内容や様子等を食事しながら話をし、毎年恒例のバンドライブ・ギター演奏やＡＫＢ４８の衣装を着こなしての踊りといったパフォーマンス大会を見て、楽しませてもらいました。

14 日の分科会は、私は第６分科会（ワークショップ「はたらくことをはなそう」）へ参加し、北海道、新潟、岐阜といった皆さん達と話しましたが、長いようで短く感じ、お互いの事業所の内容や、主にどんなことをしているのかということと、軽い自己紹介しかできなかったような気がします。もっと時間があれば良かったなというのが正直な感想です。ただ、話した人みんな「作業は楽しい！」と生き生きと本当に楽しそうに笑顔で応えてくれ、その笑顔から元気をもらえたような感じがします。

９月１３日１４日に行われた共同連熊本大会には宮城から６人が参加しました。
参加された方からの報告です。

特定非営利活動法人　桑の木　　角田　卓也

共同連熊本大会報告～第4分科会に参加して～

岩下　博子さん（清樹会ブライトハウス住吉　宮崎）

「集客が減った市の施設の喫茶店、
二度の危機を乗り越えて人気のレストランに大変身」

・就労継続支援事業A型で、一度は上手くいかなかったコンサルタントの介入で、変化を求めた二回目で成功を収めた例。
・個別対応のランチ（５８０円）からバイキング形式（８９０円）へ移行、お客さんが全くいなくなってしまった。
・過去に導入して失敗をしたコンサルタントにお願いした。
・余った食材や料理はスタッフが買って帰る。
・多い料理は作らずに小出しで対応。
・店が忙しくなってきて、混雑が予想される日は専門学生のアルバイトを頼んだ。
・エンパワメントを起こすのはお客さんであり、お店の値段を安く設定したのはレッスン料と捉えて喫茶店業務を行った。⇒お客さんがいないとやる気が起こらない。

樋口　督水さん（C―netにいがた　副会長）

暮部　達夫さん（C―netにいがた　トータルプロデューサー）

「東京ギフトショーに自力で出店！法人や施設を超えた
新潟発のブランドSpecialmix」

・一つの事業所では対応できない仕事があり、いくつかの事業所が協力して作業分担し対応できたことがきっかけでその後も連携をとりながらイベントでの販売会やギフトショーに出展することができている。（一つの事業所では金銭面、商品数で限界がある。）
・連携したことから統一ブランドをたちあげた。
・アウトプット（流通）から考えて、施設職員が主体性を持って全てを実践していくことがとても大切。「どこでどうやって売りたいのか、時間に見合った商品ができているのか。」
・事業所が連携することにより、各々のノウハウや情報を交換できること、人と人とが互いに活かし合うこと、一事業所ではできないことも達成することができることなど利点が数多くある。

・一つの事業所では大きな販売会や店舗での出店をすることが難しいが、合同会社で交渉をすることにより契約を結べた。

課題点　工賃アップ、利用者の確保、仕事がない、物が売れない等

・施設の目的を明確にする→何を一番に持ってくるか　例：工賃が安くてもやりがい
・商品の意味、名前を考えることがとても大切である。そもそもその商品に需要はあるのか。自らが買い手側の際にほしい商品と言えるだろうか。
・一般企業も一つの商品をしっかり研究して商品化している。施設の商品だからといった甘えはダメ。(商品の色が変わるだけでも信用問題に関わることを念頭にいれておく必要がある。)
・どんな商品も様々なちょっとした工夫で売れる商品に変わることがある。
・デザイン、品質向上をすることにより広報ＰＲ、ギフトショー出展の機会を増やす。その結果新規取引や工賃アップに繋がる。
（バイヤーの目線は厳しいので商品価値を高める必要。）
・アドバイザーをお願いする場合は、アドバイザーに任せきりにするのではなく事業所の強い思いや覚悟を持ち、安易な考えではなく明確に説明をする。
・商品が全体に定着するように支援をする。作っていた職員が移動になったらその商品が終了ではいけない。
・可愛い商品が施設にあふれるパターン
特に女性は可愛い物が好きなので職員の自己満足にならないようにする必要がある。
生活介護の余暇活動での行っているのか、売りたい商品を作りたいのかを見極める。
・売れない商品ははっきりとやめる決断力が必要になってくる。
・突然商品が５万個売れることなんてありえないので、継続的に商品の質を保つ必要がある。
・利用者のニーズ　　新しい取り組みを行う。

２万円欲しい利用者　５千円のストールを四本　一月で作れるのか？

・一つ一つの施設ごとに違ったサポートが必要であり、大事なことは施設のスピードに合わせることである。
・自分たちの本分をわきまえ全うするそれが全ての始まりであり基礎となる。
・社内・社外含め企業価値の向上に繋げる為に、最も大事なのは施設との心のあるコミュニケーションである。

・社会貢献活動→単なるＣＳＲ・寄付ではないサポート

（コーズリレーテッドマーケティング）

佐伯　康人さん（ＮＰＯ法人ユニバーサルクリエート　代表理事）

「奇跡のりんご」の木村秋則さんとの出会いにより、無農薬無肥料農業での障がい者雇用の実現に邁進、障がい者の自立支援を手掛けている。

・様々な障がいがあるのに、どこも同じ仕事や下請けの下請けのような仕事をしていて、工賃も安い現実に衝撃を受け、自ら法人を立ち上げた。
農業に初めて取り組み、野菜を一つ作ることに農薬を沢山使っていることを知る。自然に野菜を作りたいと考え、試行錯誤しながら無農薬無肥料の安全な野菜を作ることに成功した。障がいがある方でも工夫次第で色々な仕事（草刈りがリハビリになったり）ができることを実践している。また新たなアイディアを使い挑戦していくことを続けている。平均工賃５万円以上を達成していて、今後は１０万円以上を目標としている。

研修の感想として

・初めて共同連全国大会に参加して多くのことを知り、学ぶことができました。色々な土地で沢山の文化がある中で、それぞれが社会と向き合って共生社会を目指していることに感銘を受けました。東北はまだまだ閉鎖的な思考を持つ土地があり、全国的に見ても遅れている部分が多い中で、自分達から発信し全ての人が住みやすい社会の確立を目指し、今後も活動を続けていきたいと思います。事業所での作業についても、ちょっとした工夫（例えばラベルを綺麗なものにする、包装用紙を変えるなど）で商品価値が上がることや見た目もすごく良くなることを改めて感じました。現状の作業を継続的に行うことも大切ですが、上手くいっていない時や結果がでない時は変化を求めることも重要だと思いました。今まで考えたこともなかった支援の方法やアイディアを面白く知ることができました。また沢山の質問にも答えていただき、充実した時間を過ごすことができました。

交流会では全国各地の方達と出会い話しをすることができ、自分の中でも視野が広がりました。まずはこの経験を事業所内で伝え共有すること、そして地域でも広げていくことが今後の糧になっていくと思います。共同連全国大会は終わったばかりですが次回の共同連全国大会が楽しみであり、またこれから経験したことを少しでもお伝えできるように日々の業務に取り組んでいきたいと思います。今回出会った方々、共同連全国大会を成功に導いてくださったスタッフ、ボランティアの方々ありがとうございました。

以上

共同連熊本大会に参加して

前日のどしゃ降りもあがり、快晴の朝でした。
早目に家を出て、仙台空港に向かいました。
天気も良いし、“きょうは空から富士山が見えるかも”と
ワクワクしていた。

ところが、なんと予定の飛行機は故障個所が見つかったので、
遅れるとの事、こんな事初めてでした。(ショック！)
とにかく、どうしても熊本に行くという気持ちだけは高まり、
イライラの時間が流れました。

結局、ルートを大幅に変更し、まずは中部空港へ向かい、次は
福岡空港へ、そこから地下鉄で博多へ、そして、九州新幹線に
乗り、熊本駅に着いた時の嬉しかったこと。やれやれでした。
九州には行ってみたかったし、そこで研修が出来ること、ずっと
楽しみにしていました。

大会 1 日目は全体会、2 日目は分科会でした。他施設の
運営や賃金のこと、理想を現実にしている施設もあることなど
知ることが出来ました。

また、交流会では久しぶりの再会に、同窓会のような気分でもあり、
楽しい時間でした。

もう 1 つ大切な事、初めての土地に行ったときには、街中のバリアフリー
チェック、トイレは、お店はなど、とても気になります。
熊本の街は、アーケードがとても広くて、ゆったりした感じで、市電も
走っていました。勿論、熊本城は素晴らしい ！

今回、出発の飛行機が遅れるというアクシデントもありましたが、
空港、駅のサービス ・ 対応はありがたい事ばかりでした。
車いすでも、旅行を楽しめるように変わってきました。

最近、ふと思える時があります。“障害者も悪くないかも・・・”と。
共同連熊本大会参加は、私にとって行動すべてが学習の場となりました。

くまもんは、多忙だそうで、地元の人もなかなか見られないそうです。
くまもんに、会いたかったな～

鳥海　修子

バーベキュー秋

コッペ、マルベリーの皆と一糸者に
バーベキューをやりました。いい天気になって
よかったと思っています。うれしいよ
マルベリーさんがやさい、肉、ウインナーを
焼いてもらいました。ありがとう、すばらしい
1、やさい　2肉、3ウインナーべつべつに
食べました。おいしいかったです。
近くでバーベキューをやりたいです。

秋の香りはいい秋風

阿部　史希

実習を終えて

東北福祉大４年　　三浦　竜次

コッペに来る前は、正直「障害者の人と一緒に働く」というのが想像できない状態で、みんなが一緒に働いていると言っても、障害者の方は簡単な仕事だけをしていると思っていました。しかし、実際に一緒に働いてみると一般的な職場と同じような感じで、むしろ会話や笑顔に溢れており、他の職場もこんな雰囲気だったら働きやすいだろうなと感じました。やっている作業も、不器用な私には難しいものばかりで、みなさんにコツを教えてもらって何とかやり遂げることができました。

Ａさんが「何か言われるのを待つんじゃなくて、自分から動かなくちゃいけない」と話していたのを聞いて、私もやることがわからないのを理由に、自分から動けてなかったのではないかと感じました。他にも多くの方から色々な話をしていただき、社会人になる前に働くことの厳しさや、楽しさを少し感じることができたと思います。

私が目指している作業療法士の考えには、生活の中の行為全てを作業と呼び、その作業を食事や排泄などのセルフケア、生産的な活動である仕事・レジャーなどの遊びに分けるというのがあります。その中でも仕事は役割ややりがいに直結すると思います。役割ややりがいは生活を豊かにし、自分の存在意義を感じられる大切なものだと考えます。しかし、障害者が健常者と同じように仕事ができる場というのがまだまだ少ないと思います。

今回の実習を通して、どんな人でも環境を少し整えたり、周りの配慮によって出来る仕事はたくさんあると感じました。「障害者だから」「健常者だから」という狭い考えではなく、誰にでも得意不得意があるように、助け合いながら仕事ができるのが一番だと思います。今後、作業療法士として働く上で対象者の障害だけを見るのではなく、できることに注目し、変化だけを求めるのではなく、今の状態でもやりがいを感じるにはどのような工夫が必要なのか、という視点を忘れないようにしたいです。

8回目の街へ～みやぎアピール大行動報告～

みやぎアピール大行動実行委員会
事務局長　及川　智

「私たち抜きに私たちのことを決めるな！」
2014年9月15日、8回目となる「みやぎアピール大行動2014」を開催し、力強く仙台のメインストリートに“われらの声”を響かせることができた。今年の大集会&大行進は、晴天の中、例年並みの規模で行われた。

冒頭のスローガンは、障害者権利条約が編まれてきた過程でも叫ばれ、それ以前から障害者の強烈な怒りを凝縮させたものだ。社会の大多数である健常者を基準とした社会が長きにわたって築かれてきた中で、障害者は常に追いやられ、そして望んでもいない生活を強いられてきたのだ。そうした状況に真っ向から対峙して、全国各地で様々な運動が、このスローガンとともに連綿と展開されてきた。

その中で、2006年10月に完全施行された、障害者自立支援法(以下、支援法)に対する反対運動は、これまでにない規模の全国的な運動へと発展していったのはご承知の通りである。

宮城・仙台にあっても同様であった。当時の10.31全国大行動へ多くの仲間が参加している。「みやぎでも行動せねば」と、有志が集ったのがアピール大行動のきっかけだった。そしていわゆる「ヘルパー上限問題」が起こった時に行動したメンバーが中心だった。

支援法施行から1年を迎えようとする、2007年3月に第1回大集会、大行進(デモ)を行った。集会サブタイトルに「こんなんじゃ暮らしていけない！」と付けた。支援法を象徴する応益負担をはじめとした変化により、文字通り混乱に陥れられたような状況だったのを覚えている。かくて第1回は「集会450人、行進200人」という、宮城の障害者関連集会では最大規模となった。それだけ怒りや疑問が溜り、積もっていたということだった。

求めていることはただ一つ、どんなに障がいが重くても、地域社会の中で誰にもどこからも強制・制限されることなく暮らしたい。これだけである。それを実現するための手立てを求めているだけだ。そのためのしくみをつくろうと。

その後も「支援法出直し・廃止」「応益負担廃止」「障害者総合福祉法実現」を大きな目標、そして結集軸として大行動を組織してきた。

2011年も例年より半年ほど遅れたが、大行動を実施した。「大変な時だからこそ声を上げたい、続けたい」という想いだった。地方でそれまで集会を継続してきたという自負もあったように思う。「被災地は訴える」と掲げて、震災の現状、障害者がどれほど苛烈な状況にあったか報告がなされ、だからこそ身が入った制度改革が必要なのだと訴えた。

さて、2014年9月15日、8回目のみやぎアピール大行動を開催した。テーマは「今こそ生かそう障害者権利条約！　進めよう私たちの望む制度改革を！～医療・介護・障害年金・生活保護・障害者総合支援法　私たちの生活はどうなるの？～」という長いものとなった。これは、震災があり、障害者制度改革が進んできた過程で、さらに様々に行動してきて感じたことに関係している。社会問題の多くは、別の分野に見えても問題が起因する根っこは同じであることが多い、ということである。深いところでつながっている。ということである。

障害者制度改革も道半ばであるが、不十分でありながらも中心となる法律は出そろった。しかしながら、いわゆる「65歳問題」が表面化し、生活保護も切り崩されている。総合支援法も介護保険も年金も一体的に考えていかねばいけないのではないか、ということに立ち戻ったのだ。自己責任を押し付けることなく、相互理解と協調性と絶対的な権利を示した障害者権利条約を掲げて。

そうした、幅広の議論を行うにあたって、講師としてお招きしたのが、鹿児島大学の伊藤周平先生だった。専門は社会保障。2011年3月の大行動でお招きする予定であった方だ。3年越しにお呼びできたことは非常に感慨深かった。

社会保障全体の課題を詳しく挙げていただき、説明していただいた。総じて言えることは社会保障全体が切り崩されている、ということであった。介護保険の優先適用については、実行委員会でも学習会を開催したが、支援法7条にその根拠とされる条文があり、さらに関連する通達文書などで結局は具体的な運用は市町村に投げられる。

施策すべてに共通することであるが、それで人の半生が左右される。かなりの危機感をもって臨むべきだし、皆とも協議しながら活動していきたい。

大集会の後半は当事者アピールである。「我らの声」を共有した。特に精神科病棟での過酷で生々しいアピールがあった。一つひとつの声を共感をもって捉え、反駁する力としたい、と感じた。

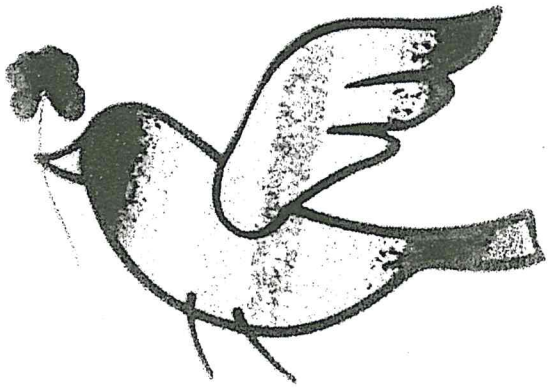
大集会では、毎年アピールを採択する。今年のアピールの基調は「障害者権利条約と幅広い連帯」である。なぜこれを強調せねばならぬのか。国は権利条約を批准した。それにも関わらず、一貫性のない施策ばかりを実施し続けるからだ。

残念ながら全国の大行動は行われなくなった。しかし課題は何も解決されたわけでも少なくなったわけでもない。それを訴え続けたいと強く思う。

各々、こうした思いを抱きながら、8回目の街へ出た。よく晴れた日だった。

「ユッペは、11/6, 11/7, 11/9, 11/10に出店します。」

ナイスハート
バザールinせんだい



手作りパンや
美味しい焼き菓子
お洒落な雑貨に
可愛い小物が勢ぞろい！

10日間

2014年 11月1日(土)～10日(月)
10:00～20:00

宮城県で活動する障がい者福祉事業所の選りすぐりの商品を
多数ご用意して販売いたします。

JR仙台駅2階
「びゅうプラザ」脇

お問い合わせ先

主催：(特非) みやぎセルプ協働受注センター
〒981-1102 仙台市太白区袋原5-12-1
Tel:022-399-6299 Fax:022-306-2515
E-mail:office@miyagi-selp.org
http://www.miyagi-selp.org
facebook http://www. facebook.com/miyagiselp